

## 「士魂商才(しこんしょうさい)」の中野武営(なかのたけなか)

明けましておめでとうございます。

今年のNHK大河ドラマの主人公は、日本実業界の父と言われる渋沢栄一(しぶさわ えいいち)です。そして彼の盟友であり、同時代に活躍したのが本市出身で香川県独立の父とも言われる中野武営(通称ぶえい)です。

昨年は、高松市の市制施行130周年でした。明治23年2月15日に全国で40番目の都市として市制施行されていますが、明治22年4月1日に最初に市制を敷いた31都市に高松市は含まれていません。要件は十分に満たしていたものの、ちょうど全国で最後となった香川県の成立直後の混乱期で、関係者の調整・協議が整わなかったのが原因とされています。

香川県は、明治4年廃藩置県により一旦成立しましたが、2年後の明治6年2月には名東県(現在の徳島県)に吸収合併され、明治21年12月に愛媛県から独立するまでの17年間に4度も合併と分離を繰り返しています。その香川県独立のために奔走したのが中野武営です。

中野武営は、幕末に高松藩勘定奉行の家に生まれ、維新後は官吏を振り出しに、香川県の独立や近代化を進め、政治家・実業家として活躍しながら、本市の上下水道や港湾整備のために力添えを行うなど、高松市の発展にも尽力されています。この他、銀行や鉄道、電力会社、新聞社の設立など地元の経済基盤の礎を築いています。また中央では渋沢栄一の後任として現在の東京商工会議所の会頭を13年も務めた他、東京市の議長や衆議院議員としても活躍しています。しかし、この中野武営の名前は、2年前に没後100年の記念シンポジウムが開かれるまで、多くの県民、市民は、ほとんど聞いたことがなかったようです。様々な立場で大きな仕事をしたため、一言では言い表せない、多彩さ、複雑さが知名度の壁になっているのかもしれません。

渋沢栄一は「論語と算盤(そろばん)」、倫理と利益の両立を説いた人。そして、中野武営は「士魂商才」、武士の気骨と商才を併せ持っていると言われた人です。並び称されても良いと思いますが、「ぶえいさん」、大河ドラマに出てこないかなあ。



薄田貞敬「中野武営翁の七十年」口絵写真

(画像提供:香川県立ミュージアム)